

令和2年度大学院学位記授与式 学長式辞（令和2年3月18日）

皆さん、修了おめでとうございます。今年は新型コロナウイルスの予防的措置として、学位授与式は、規模を縮小して行うことになりました。

まずは、修士論文の作成をはじめとするさまざまな努力が実って、本日皆さんが学位を取得し、修了の日を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。また、これまで大学院でご指導・ご支援にあたられました教職員の皆様にも、この場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

さて、現在社会は人工知能（AI）などの技術革新が進んだこともあり、将来については、予測が困難な時代となっています。今ある仕事のうち、10年、20年後に残るものがどれだけあるか、正直なところ誰にもわかりません。こうした時代を力強く生き抜くためには、一生涯学び続ける強い意志を持つことが必要です。とりわけ、大学院で学んだ皆さんは、その専門的知識が時代遅れなものにならないよう、今後とも研鑽を続けていただきたいと思います。

もっとも皆さんは、修士論文作成の過程において、自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、先行研究を調査した上で、一貫した方法と論理で独自の結論を導き出そうとする孤独な作業に取り組まれてきました。そうした取組は、学問の分野においてはもちろんのことですが、それ以外のさまざまな仕事の中でも必要とされる貴重な能力を、知らず知らずのうちに磨いていたのだと考えます。どうか論文作成の過程で身につけられた専門的知識や課題解決能力を日々の仕事の中で存分に発揮し、それぞれの職場で求められる新しい方法や分野の開拓に役立ててください。

また、皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。何よりもお体に気をつけてお過ごしください。駿河台大学は、いつまでも皆さんを応援しています。

令和2年3月18日
駿河台大学 学長 大森一宏